

成果指標				
成果指標	今年度の利用人数÷過去2年間平均利用人数＝成果指標			
指標設定の考え方	スポーツ活動の環境づくりとして、有料施設の利用者数を事業の評価と考え、指標とした。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標32年度
目 標	1.01	1.01	1.01	0
実 績	0.83	0.91	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	指定管理者制度を活用した運営を検討した結果、施設規模、人員配置等について費用的に不効率となるため、当面は直営にて管理することとした。今年度は公園に設置されている滑り台について不具合が生じていたので改修した。今後も施設の維持管理については、適正に行ない、利用者が満足するものとなるよう努めなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	自己評価者の課題認識のとおりである。今後においては、再度、指定管理者制度の活用も視野に入れ検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題